

# オンライン説明会

アストマックス株式会社  
(ジャスダック: 8734)

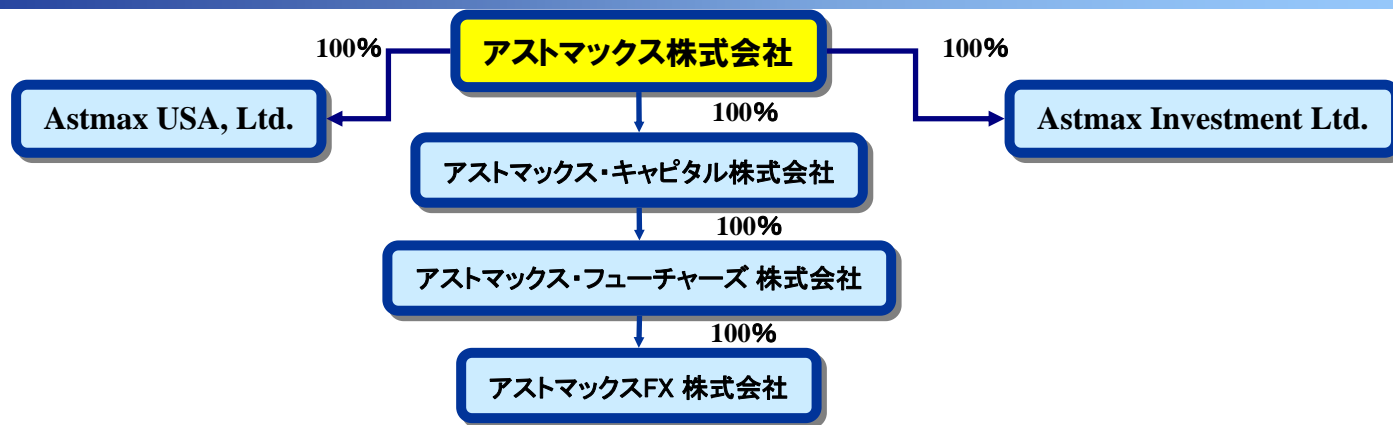
2008年5月20日

●当資料は特定の商品の勧誘及び販売を目的として作成されたものではありません。●当資料は、アストマックス株式会社が信頼性が高いとみなす情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性等について保証するものではありません。また、当資料に示すデータ・意見は当資料作成日のアストマックス株式会社の実績・見解を示すものですが、当資料により被った損害を補償するものではありません。●当資料における運用実績は過去のものであり、将来の運用結果を保証するものではありません。●当資料は目的にかかわらず、アストマックス株式会社の許可なく複製及び複写することを禁じます。



# 当社企業グループ概要

# 当社企業グループ概要



## アストマックス・グループ(2008年3月末現在)

純資産 : 4,289百万円		従業員 : 84名
アストマックス株式会社 : ディーリング事業、資産運用全般 金融商品取引業登録番号: 関東財務局長(金商)第422号		
資本金 : 1,720百万円	設立 : 1992年 9月	代表取締役社長 : 牛嶋 英揚
アストマックス・フューチャーズ 株式会社: ディーリング事業		
資本金 : 2,000百万円	設立 : 1989年12月	代表取締役社長 : 牛嶋 英揚
アストマックスFX 株式会社: 外国為替証拠金取引 金融商品取引業登録番号: 関東財務局長(金商)第239号		
資本金 : 490百万円	設立 : 2006年4月	代表取締役社長 : 牛嶋 英揚
アストマックス・キャピタル株式会社: 事業会社の持株会社		
資本金 : 58百万円	設立 : 2007年3月	代表取締役: 牛嶋 英揚
ASTMAX USA, Ltd. (米国ニューヨーク市在) 米国 CTA/CPO		
資本金 : 650千米ドル	設立 : 1994年 1月	President & CEO : 本多 弘明
ASTMAX Investment Ltd. (ケイマン諸島籍) ファンドへの投資及び管理会社業務		
資本金 : 631.7百万円	設立 : 1999年11月	Managing Director : 本多 弘明

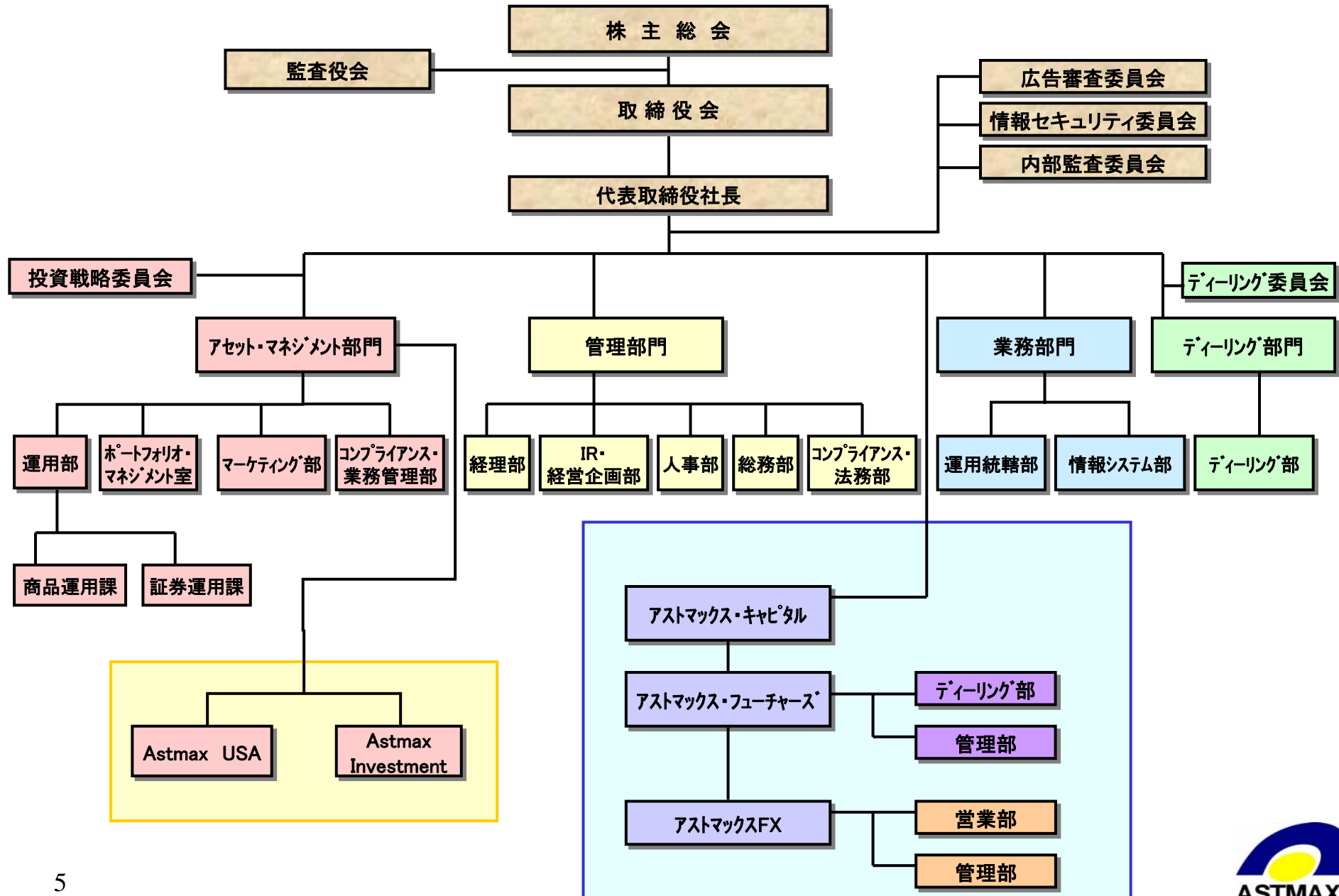
# 2007年度ハイライト

- 07年5月 株式会社大和証券グループ本社への第三者割当による新株式発行
- 07年6月 アストマックス・フューチャーズ(株)(旧三井物産フューチャーズ(株))の子会社化
- 07年9月 ネット取引による商品先物取引受託事業のドットコモディティ(株)への事業譲渡  
(アストマックス・フューチャーズ(株))
- 07年10月 アストマックスFX(株)による新取引システム(Algorithm Trade FX)開始
- 07年11月 アストマックスFX(株)による新サービス「スプレッドバックキャンペーン」開始
- 07年11月 伊藤忠商事株式会社への第三者割当による新株式発行
- 08年1月 組織の再編成
- (目的)
1. アストマックス・フューチャーズ(株)との一体運営
  2. 部門制の導入による効率的かつ機能重視の組織作り
- (内容)
1. アセット・マネジメント部門、ディーリング部門、管理部門、業務部門の4部門制
  2. IR・経営企画部、総務部、人事部、経理部、コンプライアンス・法務部、コンプライアンス・業務管理部、情報システム部の新設
- 08年1月 アストマックス・フューチャーズ(株)の商品先物取引受託事業からの撤退及びプロップハウス(ディーリング)事業への経営資源の集約

(\*)アストマックスFX(株)はアストマックス・フューチャーズ(株)の100%子会社であり、外国為替証拠金取引(FX取引)の専門業者

# 当社組織図

2008年3月31日現在



# 事業内容

当社企業グループの事業は以下の事業から構成されます

顧客資産の運用

商品投資顧問

証券投資顧問

自己資産の運用

ディーリング

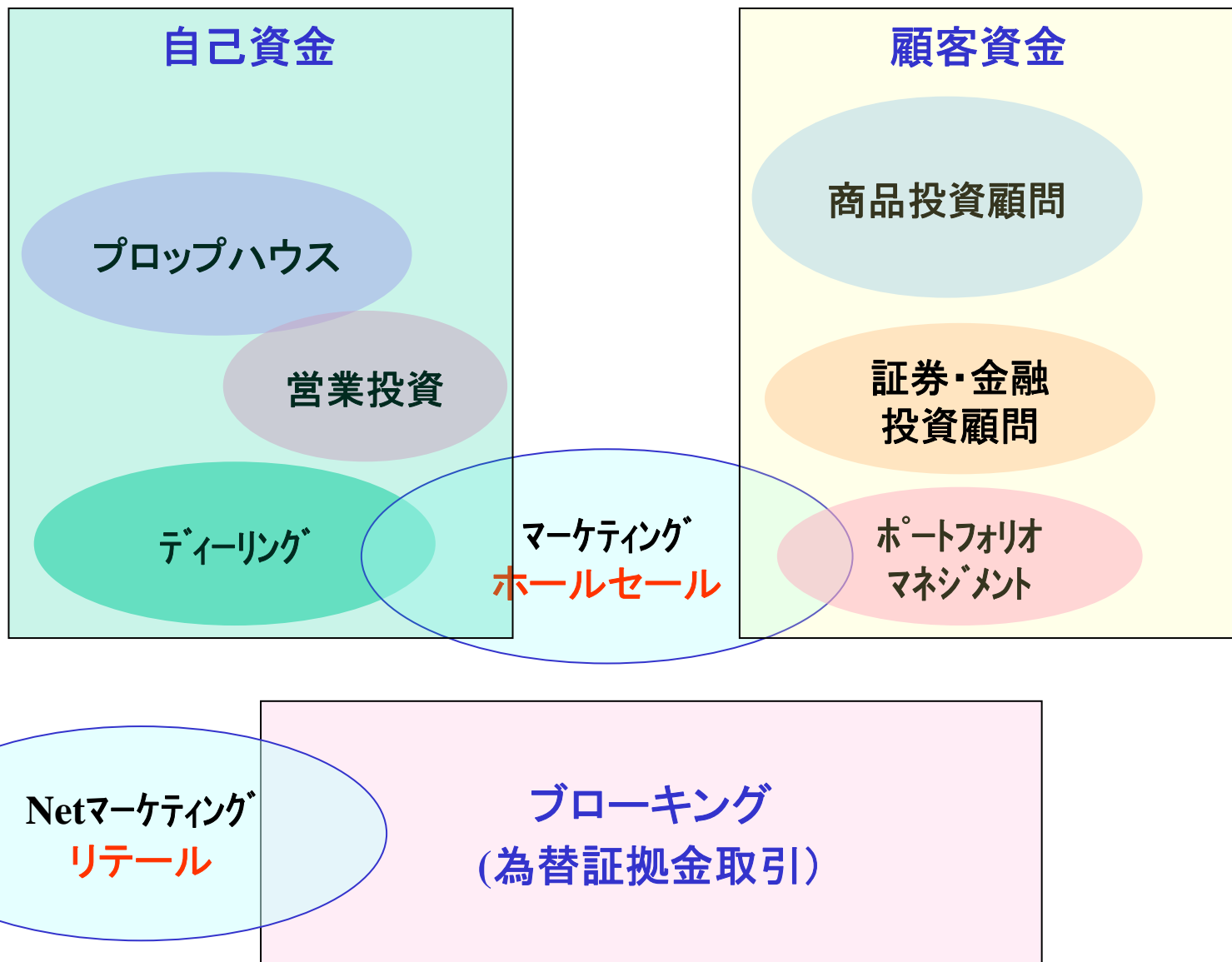
プロップ・ハウス  
(ディーリング)

営業投資

ブローキング

外国為替証拠金取引

# グループのビジネス・ドメイン



# 連結決算ハイライト

## 連結決算

単位:百万円	2007年 3月期(参考)	2008年 3月期
営業収益	988	2,469
営業利益又は 営業損失(△)	△15	△537
経常利益又は 経常損失(△)	△86	△558
当期純利益又は 純損失(△)	△93	613

昨年6月末に旧三井物産フューチャーズ(株)(現アストマックス・フューチャーズ(株))を買収したことにより、営業収益は前年度の988百万円から2,469百万円へと大幅に伸びたものの営業費用の増加は更に大きく、結果として連結営業損失が537百万円発生しました。

この最大の要因は、上記買収により、ディーリング部門が大幅に増強され、ディーリング収益の増加に貢献した事及び事業再構築の途上にあつたアストマックス・フューチャーズ(株)の費用削減のタイムラグによります。

一方、アストマックス・フューチャーズ(株)においてネットによる商品先物取引受託事業のドットコモディティ株式会社への事業譲渡益等による特別利益を1,749百万円計上したため、当期純利益は613百万円となりました。

# 4半期毎のセグメント別業績推移

ディーリング事業の収益が第3四半期より急回復

買収に伴う事業の再構築によるコスト削減効果が徐々に現れる。

商品先物受託業務は完全に廃止。

外国為替証拠金取引は業績が低迷。競争が激化する中、ビジネスのモデルの転換中。

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	通期
<b>営業収益</b>	419	416	664	968	2,469
商品投資顧問	21	31	29	45	126
証券投資顧問	9	9	8	8	34
営業投資	9	△6	3	△62	△56
ディーリング	223	251	557	957	1,988
商品先物受託	119	81	45	△1	244
外国為替証拠金取引	36	51	23	22	132
<b>営業利益</b>	△295	△263	△59	80	△537
<b>経常利益</b>	△300	△294	△55	91	△558

# 2008年3月及び4月の業績

○2008年3月は営業投資事業において、当社企業グループが運用する株式ファンドへの投資につき運用結果が思わしくないことからファンドのクローズを決定し、期末において約65百万円の評価損を計上したこと及び期末関連の費用が足かせとなり営業利益・経常利益ともに赤字となりました。

○同4月は流動性の低下にもかかわらず例月並みのディーリング事業の収益が確保でき、黒字となりました。

	07年 4月	07年 5月	07年 6月	07年 7月	07年 8月	07年 9月	07年 10月	07年 11月	07年 12月	08年 1月	08年 2月	08年 3月	08年 4月
営業 収益	49	89	281	141	158	117	199	311	154	355	345	267	262
営業 利益	△22	△16	△256	△91	△76	△94	△8	44	△95	38	76	△34	27
経常 利益	△23	△16	△260	△98	△79	△117	△3	42	△94	37	75	△20	27

(単位百万円)



# 前期事業レビュー及び今後の展望

# アセット・マネジメント事業

# アセット・マネジメント事業【前期レビュー】

## ○事業環境

- ・堅調な商品市況：原油、穀物、金等の大幅な価格上昇
- ・金融市場が混乱する中、代替投資対象として商品投資の位置付け高まる
- ・AMCIは引続き20%を超える上昇
- ・本邦株式市場は米国サブプライムショックの影響によるダメージ大

## ○当社の運用戦略

- ・AMCI連動型運用：上半期に機関投資家の資金受入れによる運用資産増加  
第3四半期半ば以降、利益確定の動き強まる(ファンドの解約)  
前期末運用資産額は期初レベルまで減少
  - ・商品裁定型運用：運用収益率は2%強と低迷したが、変動率が高い市場環境の中、安定した運用成果を月次にて達成。結果、運用資産は年度を通じて増加
  - ・ポートフォリオマネジメント事業：第2四半期より年金基金向け、本格的営業活動開始  
前期に開始した本邦株式ロング&ショート型運用、商品オプション型運用は市場環境の大幅な変化もあり、前期末に運用停止を決定
- ## ○大和証券及び伊藤忠商事グループとの業務補完関係
- ・個人投資家向け(大和証券)、機関投資家向け(伊藤忠商事グループ)運用戦略提供

# アセット・マネジメント事業【今後の展望】

## ○事業環境

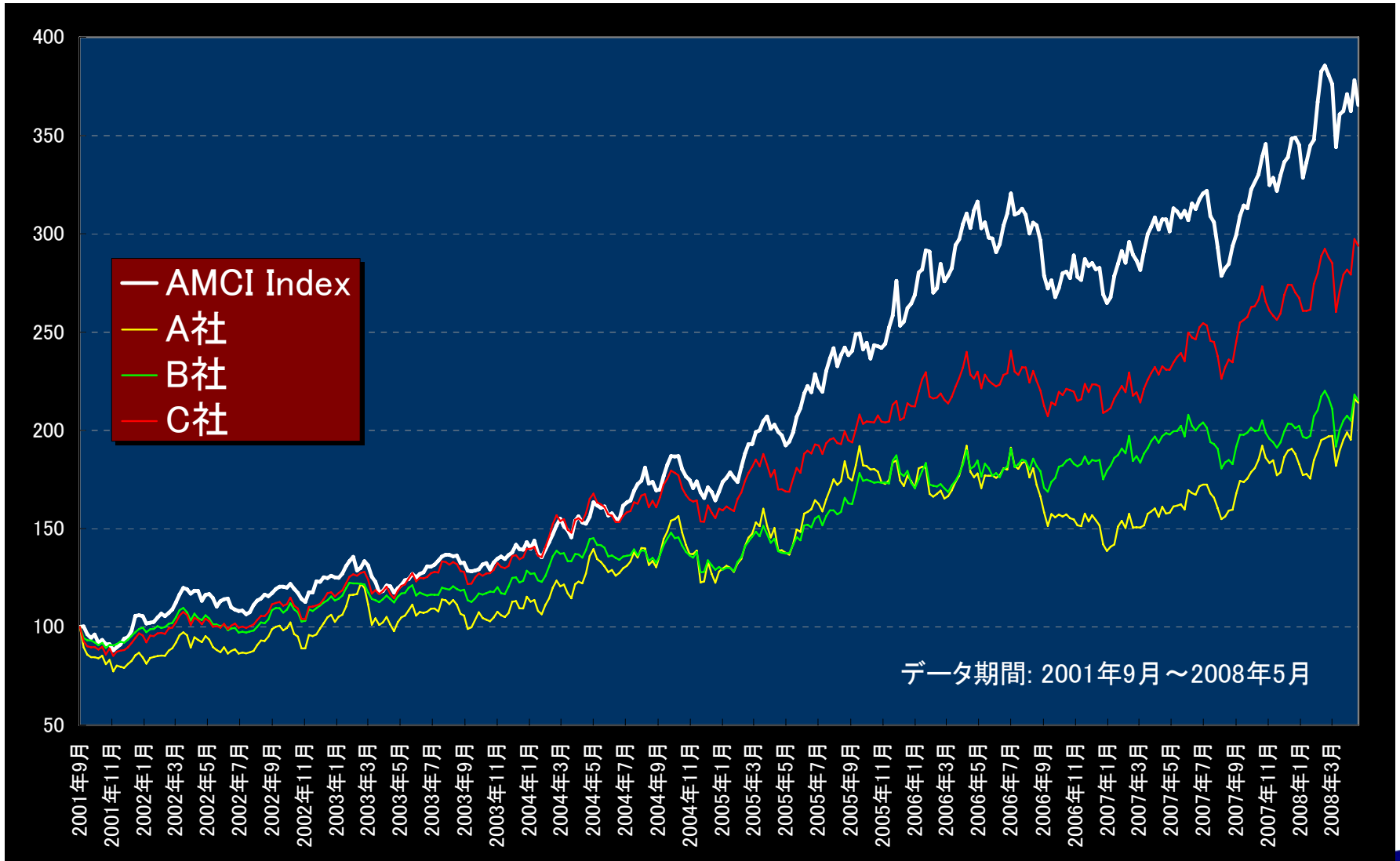
- ・マクロ経済の動向はスタグフレーション的な様相を示現する可能性あり
- ・堅調な商品市況の展開続く：AMCIは引続き上昇する見通し
- ・代替投資としての商品投資の位置付け：  
前年度の投資成果、今後の経済予想を踏まえ、機関投資家の組入れ意欲強まる
- ・金融商品の組合せのみでは期待する分散効果を得られないことも背景
- ・パッシブ運用からアクティブ運用への流れ：  
一部機関投資家は商品先物を利用したアクティブ運用へと向かう
- ・個人投資家の商品運用商品への関心高まる

## ○事業展開

- ・本邦機関投資家・海外投資家向け商品先物を利用するアクティブ運用を開始
- ・個人投資家向け商品先物を利用するパッシブ及びアクティブ運用の提供に着手
- ・既存運用戦略の改良等による運用収益率改善
- ・年金基金向け運用戦略の提供、投資一任契約の獲得
- ・投資家向けサービスの質、リスク管理機能及びコンプライアンス体制の更なる向上
- ・一部の運用戦略停止により、在NYオフィスファンドマネージャーの帰任

# Astmax Commodity Index (AMCI)

アストマックス商品指数(AMCI)【白線】と円換算した  
他主要商品指数の比較 2001年9月14日=100



<HELP> ヘルプ画面を表示

Mtge CRR

<PAGE FWD>表形式, 番号<セクターキー><GO>各証券にアクセス

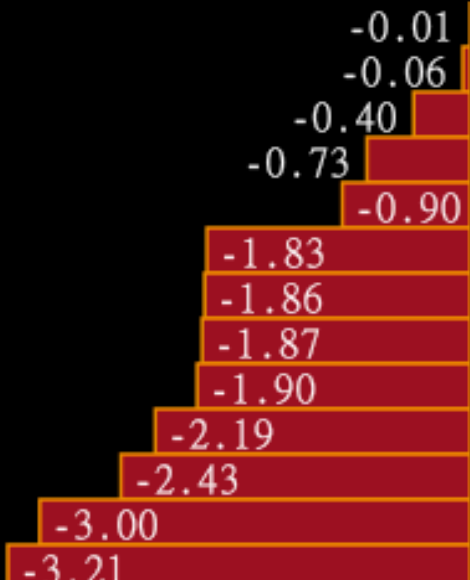
# 商品先物収益率ランキング

期間	2008 Q1	提供社	指数の比較	通貨	JPY
日指定	12/31/07 - 03/31/08	商品	トータルリターン	銘柄数	19

## 全銘柄のパフォーマンス

1) AMCI01	アストマックス商品指数
2) DBLCOYTR	トヨタ銀行 伊*タイム・イ*ム* 指数
3) DBLCMAVL	トヨタ銀行 Liquid 指数
4) JMCXTR	JP 仏ガソコイ*イ*イ*カーブ* 指数
5) DCI TRUS	Diapason コイ*イ*イ* 指数
6) DCIBGLTR	DCI BNP の リ* イ* の フ* ス* 指数
7) CMCITR	UBS プ* ル* の * * * * * CMCI 指数
8) LBCITR	リーマン・ブラザーズ・コイ*イ*イ* 指数
9) RIEHGL	RICI の フ* ス* 指数
10) LBPBTR	リーマン・ブラザーズ と * * * * * 指数
11) BIRMIUSD	ブルミスター・インターナショナル 原材料価格...
12) MCCITR	MCCI 世界商品指数
13) MLCXTR	メルルソフ・コイ*イ*イ* 指数
14) SPGSCISI	S&P GSCI の フ* ス* * * * * 指数
15) SPGSCITR	S&P GSCI 商品指数
16) DJAIGTR	ダウ・ジュンズ・AIG コイ*イ*イ* 指数
17) RICIGLTR	ロイ* + * * * * 国際商品指数
18) BCIPT	ベ*イ* コイ*イ*イ* 指数
19) CRYTR	RJ/CRB の フ* ス* 指数

1.92
1.83
1.79
0.66
0.30
0.21

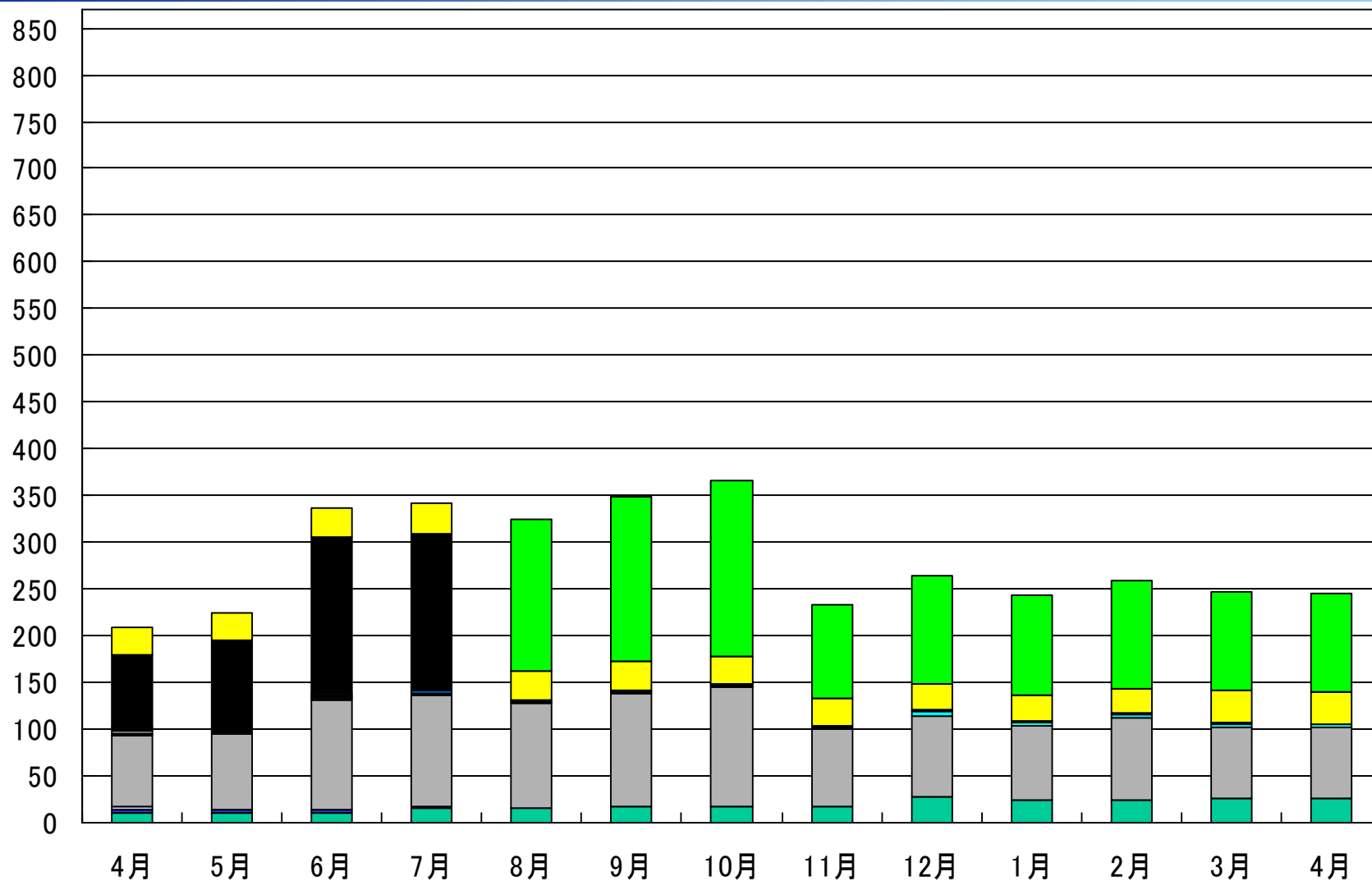


Australia 61 2 9777 8600 Brazil 5511 3048 4500 Europe 44 20 7330 7500 Germany 49 69 9204 1210 Hong Kong 852 2977 6000  
 Japan 81 3 3201 8900 Singapore 65 6212 1000 U.S. 1 212 318 2000  
 Copyright 2008 Bloomberg Finance L.P. H172-1015-0 14-May-08 17:31:49



# 平成19年度グループ運用資産推移

億円



# 営業投資事業【前期レビュー及び今後の展望】

## ○前期レビュー

- ・当社グループが投資顧問契約を受託する外国籍投資信託への投資
- ・AMCI連動型運用、商品裁定型運用、本邦株式ロング&ショート型運用、商品オプション型運用を行う外国籍投資信託への投資
- ・本邦株式ロング&ショート型及び商品オプション型運用は運用停止、損失計上

## ○今後の展望

- ・商品先物を利用したアクティブ運用戦略を採用する外国籍投資信託への新規投資
- ・機関投資家による同投資信託へのシードマネーの受入れ
- ・総投資資金額は当面、前期末比減

# ディーリング事業 (プロップ・ハウス事業)

- 堅調な商品市況：原油、穀物、金等の大幅な価格上昇
- 世界の商品先物市場の活況
- 日本の商品先物市場は流動性が低下
- 東工取の取引時間の17:30までの延長（2008年1月）
- 東穀取のコーヒー・粗糖のザラ場化
- 東工取がグローバル・スタンダードを満たす新システムの導入（2009年5月稼動）決定
- 同株式会社化（2008年中）決定
- 同取引時間の24時間化（2010年）を決定
- JCCHの改革決定

- 上半期は国内商品市場の流動性低下から業績低迷
- 下半期は流動性は低いながらも、以下の要因から業績が急回復。又東工取における 売買高が一位となった。
  - 日中の変動率が非常に高くなった
  - デイラーの能力が向上した
  - 海外・OTC市場の取引及び国内との裁定取引を増やし、手法を分散した。
- アストマックス・フューチャーズのディーリングについても上半期は低迷したが、下半期に以下の要因から急回復した。
  - 収益力の落ちたディーラーに代えて新規ディーラーを採用
  - エネルギー市場に集中していた運用を貴金属等に分散
  - 海外・金融市場への手法の分散
  - リスクマネージメントの強化

# ディーリング事業 vs プロップ・ハウス事業(相違点)

		プロップハウス事業	ディーリング事業
人 事 制 度	採用	実績のある経験者を中途採用	ディーリング業務の適正の高い未経験者を採用し育成する。
	職群	原則雇用期間の定めがある契約社員	原則トレーニーとして採用の上、一定期間の実績から適正を判断し正社員に変更
	報酬	固定給+個人インセンティブ	年俸+チームインセンティブ 又は 固定給+個人インセンティブ
	人事評価	個人成績による定量評価	個人・チームの成績による定量評価+部門業務等の定性評価
取 引 対 象 手 法 等	取引対象市場及び銘柄	商品・金融・証券の上場銘柄	商品の上場・店頭銘柄
	対象取引	原則 先物・オプション	先物・現物・オプション・スワップ等
	ポジション・手法	Day Trade中心の短期取引	Day Trade、裁定取引、マーケットメイク
	リスクマネジメント	取引を電子端末を使った取引に限定し、リアルタイムでのリスク管理を行う。	電子端末だけでなく、電話等での取引も行うことから完全にリアルタイムでの管理を行えない。

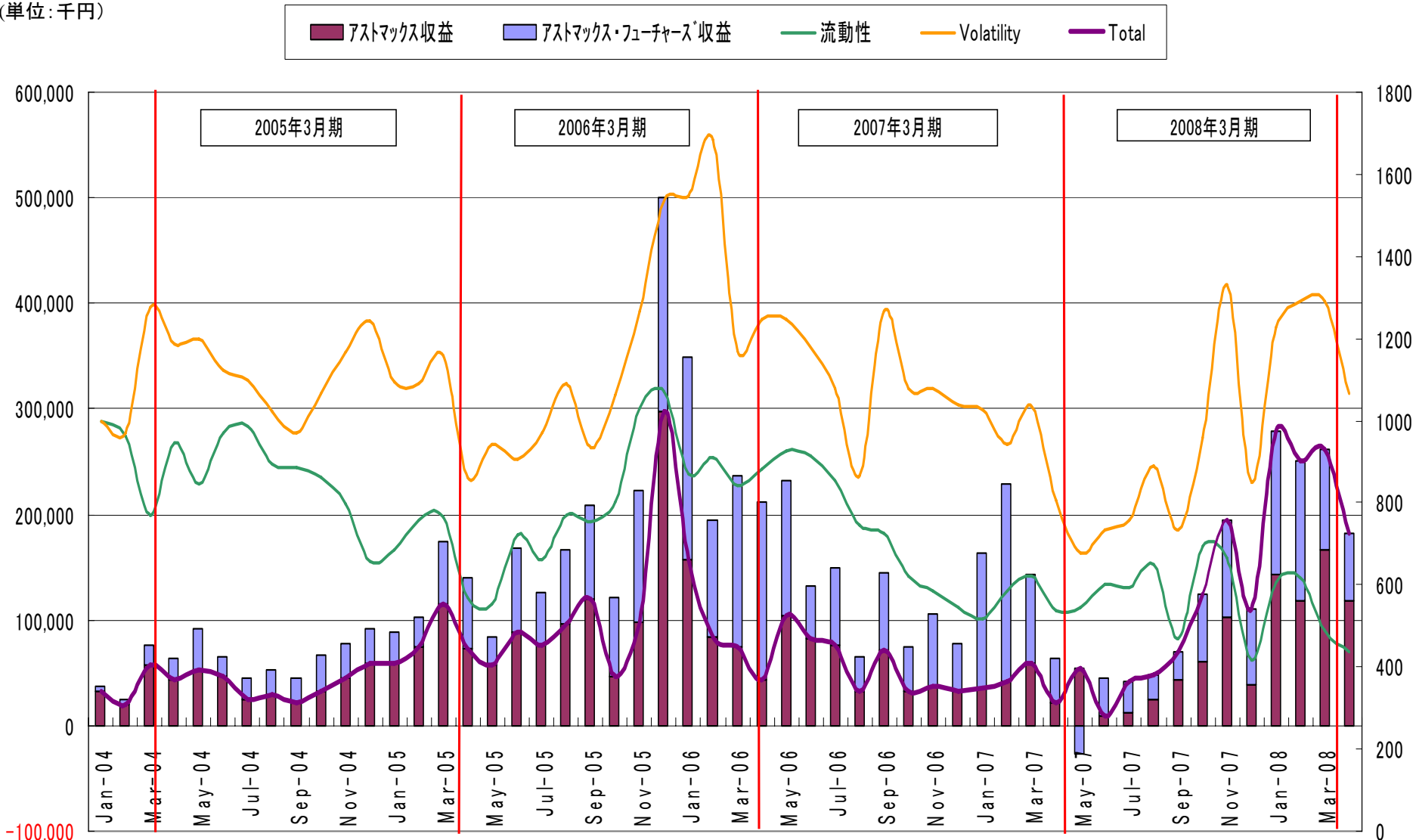
# 最近の当社グループの売買高

◎ 下半期におきまして、東京工業品取引所での月間売買高はアストマックスグループ合計で第1位を達成。大手総合商社、外資系銀行を凌駕するレベルを記録。

	第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期		2008年4月	
	<b>アストマックス合計</b>	<b>1,857,698</b>	<b>アストマックス合計</b>	<b>1,586,672</b>	<b>アストマックス合計</b>	<b>2,500,523</b>	<b>アストマックス合計</b>	<b>3,476,338</b>	<b>アストマックス合計</b>	<b>1,142,581</b>
1位	三菱商事F	1,725,384	スタンダード銀行	2,122,353	<b>アストマックス</b>	<b>1,700,474</b>	<b>アストマックス</b>	<b>2,777,904</b>	<b>アストマックス</b>	<b>946,277</b>
2位	三井物産	1,431,337	三菱商事F	1,730,997	三菱商事F	1,658,393	三菱商事F	1,333,251	三菱商事F	387,402
3位	<b>アストマックスF (旧三井F)</b>	<b>1,187,132</b>	三井物産	1,386,745	三井物産	1,201,339	ユニコム	1,212,737	ユニコム	366,155
4位	岡藤	960,495	双日	1,087,573	明治物産	1,185,849	フジF	1,116,509	岡地	308,800
5位	双日	949,983	フジF	885,330	フジF	1,167,954	明治物産	996,784	フジF	290,910
6位	フジF	920,098	岡藤	875,986	スタンダード銀行	1,096,073	三井物産	956,219	豊商事	280,098
7位	岡地	901,296	住友商事	848,356	岡藤	1,010,995	豊商事	932,000	岡藤	279,728
8位	明治物産	824,636	岡地	817,559	豊商事	981,499	岡地	868,439	明治物産	264,507
9位	住友商事	809,907	<b>アストマックス</b>	<b>812,364</b>	岡地	896,363	岡藤	863,021	三井物産	225,816
10位	三菱商事	787,415	<b>アストマックスF</b>	<b>774,308</b>	ユニコム	875,920	スタンダード銀行	788,495	<b>アストマックスF</b>	<b>196,304</b>
11位	ユニコム	774,954	ユニコム	770,960	双日	837,656	<b>アストマックスF</b>	<b>698,434</b>	ニューエッジ	159,888
12位	住商エレクトレード	701,652	豊商事	752,707	<b>アストマックスF</b>	<b>800,049</b>	エース	636,511	カネツ	135,328
13位	ひまわり	673,195	三菱商事	718,249	三菱商事	727,351	住友商事	603,474	双日	133,063
14位	<b>アストマックス</b>	<b>670,566</b>	明治物産	717,279	住友商事	727,014	ニューエッジ	592,894	山前	131,112
15位	アサヒ	640,760	住商エレクトレード	627,993	エース	701,192	三菱商事	522,966	スタンダード銀行	128,220

# Dealing 収益 vs 流動性 & Daily Volatility

(単位: 千円)



Volatility: 1日のうちの値動きの大きさを指数化したもの (2004年1月を1,000とした指数)

流動性: 東京工業品取引所の出来高を指数化したもの (2004年1月を1,000とした指数)

**日本の商品市場の流動性の低下は続く一方Volatilityは高い状況が続く。以下の戦略で収益の確保を図る。**

- **セクター別に国内外、現物市場との裁定取引を増加させ収益力の増大を図る。（チーム制）**
- **アルゴリズムを使ったマーケットメイク業務（東京工業品取引所の24時間化に対応）**
- **顧客に対しての店頭商品デリバティブのマーケットメイク業務（order Flow）をベースにした収益の増大**
- **オプション取引を開始。**

# プロップ・ハウス事業【今後の戦略】

- 現在は国内の商品先物取引が大半であるが、海外・金融・証券市場での取引を増加させ分散を図る。
- ディーラーが収益が上がると思われる市場・銘柄・時間帯を任意に選べるように24時間体制を構築する。
- アルゴリズム取引を開発する。
- 中国をはじめアジアにおけるProp House事業の展開を模索。
- ディーラーの増員。積極的に優秀な新規ディーラーの採用を進める。

# 外国為替証拠金取引事業

現状2つの取引システムを提供中、主力は「Algorithm Trade FX」



## 現状維持路線

- ・初級～中級者に対応
- ・高スワップ
- ・携帯取引

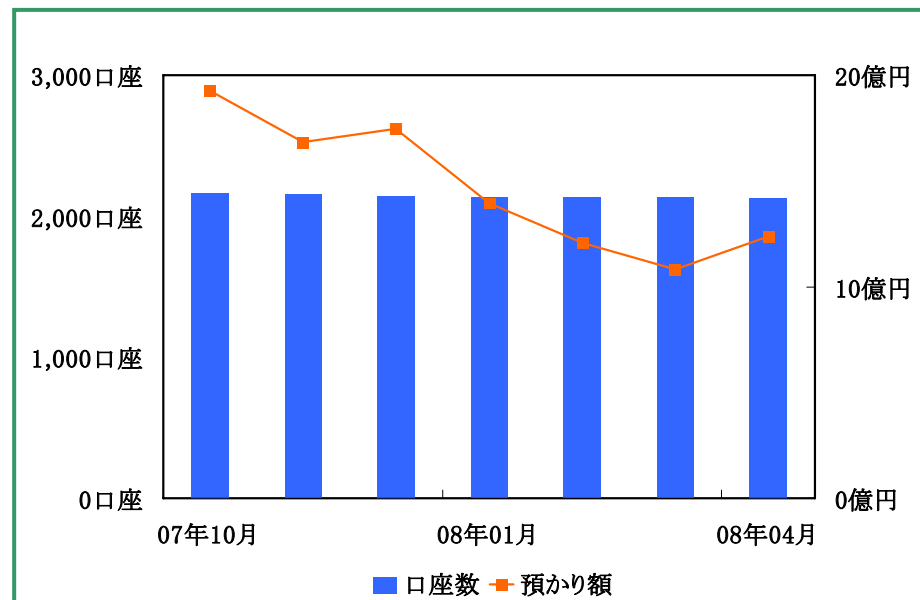
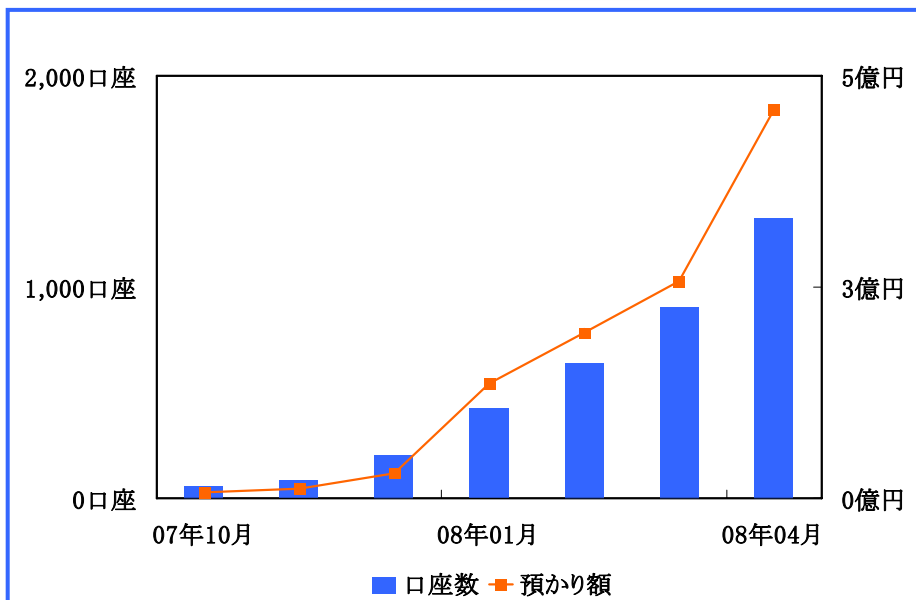
## シェア獲得路線

- ・初級～上級者まで幅広く対応
- ・手数料ゼロ、低スプレッド

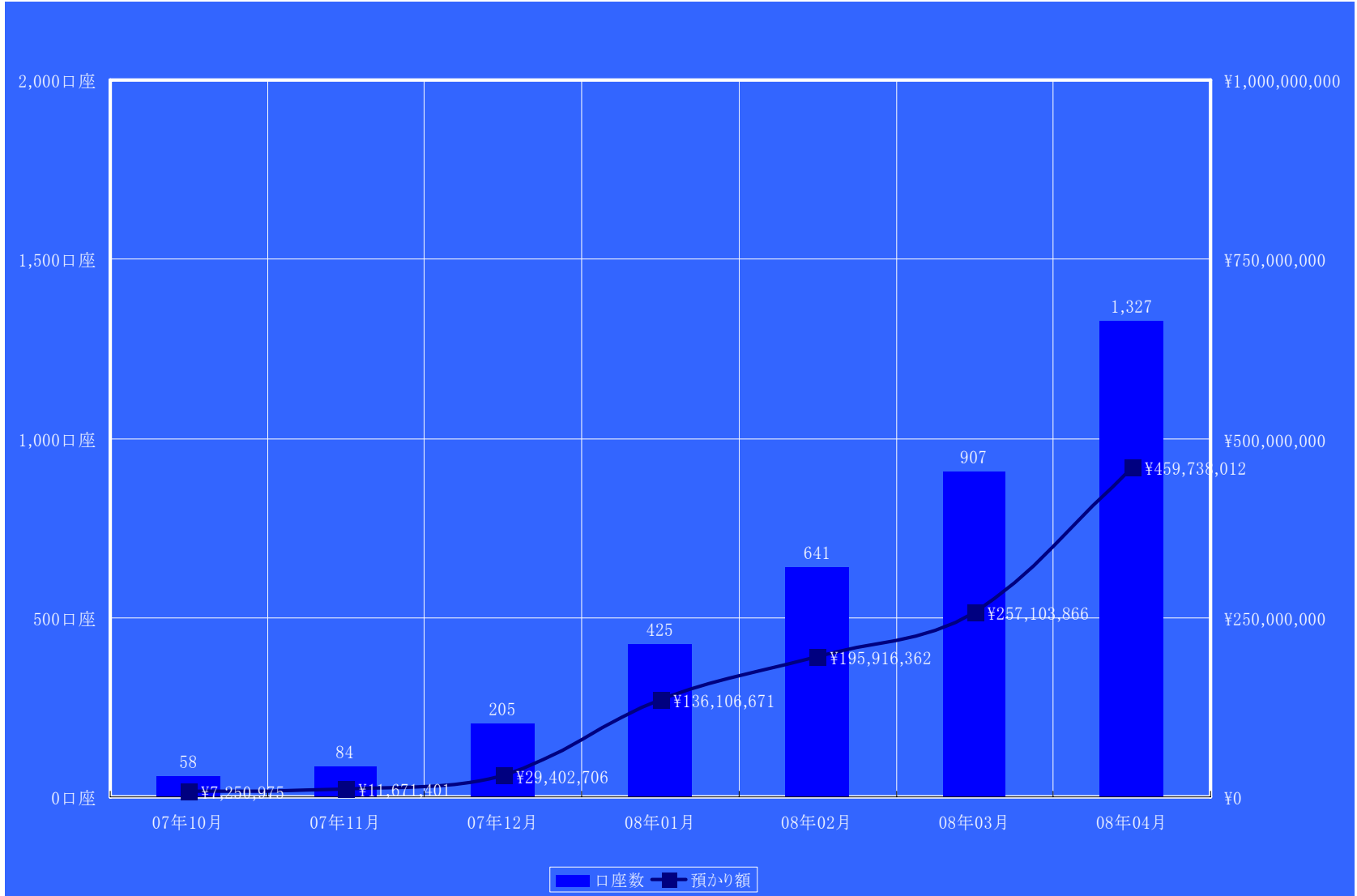
## マーケティング施策

- ・ネット広告中心
- ・キャッシュバックキャンペーン
- ・独自コンテンツ(PUCKツール等)

「Algorithm Trade FX」は順調に伸びたが、「Super Currency」は  
 預かり減少



# SAXOの口座数と預かり額の推移



競争激化するFX業界における、当社のコアコンピテンスは・・・



「Algorithm Trade FX」でのシェア獲得路線を継続

+

顧客向けプロフェッショナルサービスの提供

手数料競争

スプレッド競争

独自サービス  
開発競争

顧客損失の抑制(収益拡大)に役立つ本物のサービスが求められている・・・

## 顧客向けプロフェッショナルサービスの提供計画・・・

### PUCKツールの拡張



CmdLAB.

～顧客トレードスキルの向上を目指す～

(1) 現状ドル円のみ → 多通貨ペア対応

(2) 取引戦略評価シミュレーションシステム

→ 出力数値に基づき取引を行うエージェントを複数稼動

### プロフェッショナルレポートの提供

～顧客損失の抑制(収益拡大)を目指す～

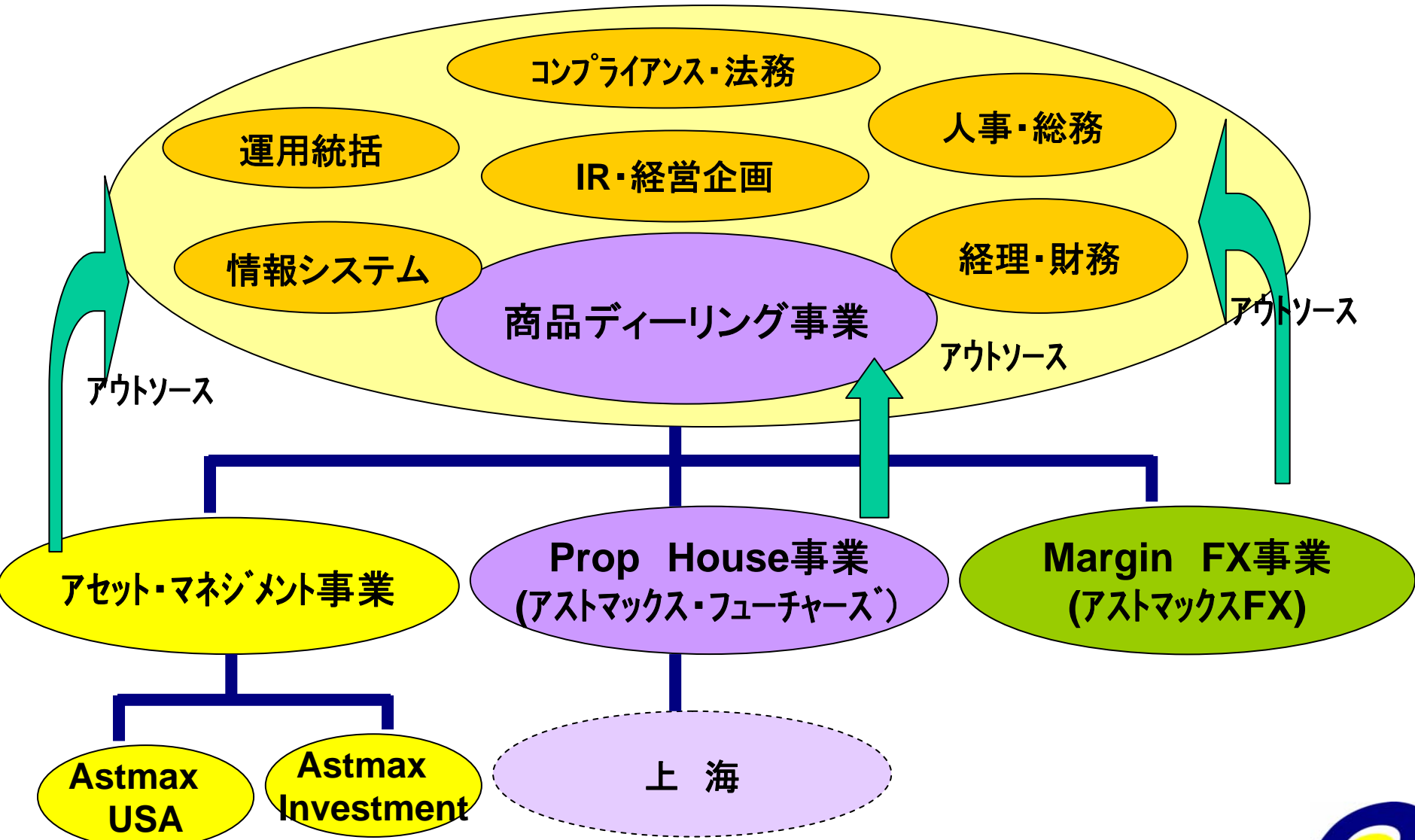
(1) 顧客ポジション推移やリスクエクスポージャーについて時系列で分析

(2) PUCKツールエージェント(複数)と自身の取引を比較

※これらの計画は提供を保証するものではありません。

- **システムの強化・管理体制強化**
  - CosmosⅢの本格稼働
  - 会計システムの統合
  - デーリング・プロップハウス双方のRMの高度化
  - 24時間化への対応
- **コンプライアンス・内部統制強化**
  - 金融商品取引法への迅速かつ適正な対応
- **組織の効率化・管理部門の相対的スリム化**
  - スリム化した管理体制の構築
  - 経理・情報システム・リスクマネジメント・コンプライアンス等早期に統合
- **人事制度の統合・新年金制度**

# 組織再編イメージ



アストマックス株式会社 IR・経営企画部

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿一丁目20番18号

TEL:03-5447-8424 FAX:03-5447-8431

URL:<http://www.astmax.com/>

- 当資料は特定の商品の勧誘及び販売を目的として作成されたものではありません。
- 当資料は、アストマックス株式会社が信頼性が高いとみなす情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性等について保証するものではありません。また、当資料に示すデータ・意見は当資料作成日のアストマックス株式会社の実績・見解を示すものですが、当資料により被った損害を補償するものではありません。
- 当資料における運用実績は過去のものであり、将来の運用結果を保証するものではありません。
- 当資料は目的にかかわらず、アストマックス株式会社の許可なく複製及び複写することを禁じます。